

令和6年度「熊本の学び」研究指定校事業 事業実績報告書

1 研究の内容

授業力向上（○）・道徳教育（○）・キャリア教育（ ）・特別活動（ ）
カリキュラム・マネジメント（ ）・その他（ ）（内容： ）

2 学校の概要

<生徒数・学級数（令和6年（2024年）4月現在）>（単位：人）

プロジェクト校	児童生徒数	教員数	校長名	研究主任名
氷川町立竜北中学校	156	23	高橋 博之	菊川 由季

3 研究主題

「安心して学び合える学級集団づくり」

～主体的・対話的で深い学びが展開されるクラスを目指して～

4 研究主題設定の理由

(1)生徒の実態から（職員アンケートより抜粋）

【新2年生に関して】

- ・全体的に明るく元気な生徒が多い。
- ・学習面においては、教え合いの習慣がついている。
- ・課題としては、学力向上。発表や家庭学習を進んで行う力を向上させたい。また、自分の目標をもっと高めに設定する向上心をもたせたい。

【新3年生に関して】

- ・とても真面目で、全体的に規範意識が高い。
- ・決められたルールをしっかり守ることができ、組織としてまとまっている。
- ・臨機応変に動く力を高めさせたい。新しいものを作り出す力、即興でも発言・発表する力に課題を感じる。

〈考察〉

- ・新2，3年生に共通していえることは、学習規律（時間を守る、授業準備を揃える、話の聴き方等）に関しては、ここ数年の中でかなりの改善傾向が見られる。どのクラスも落ち着いた雰囲気の中で授業が行われている。
- ・課題と感じるのは、生徒が“主体的に学ぼうとしている姿”である。50分の授業の中で、活発に発表する生徒がいる一方で、一度も発言することもなく、授業に対して消極的になっている生徒もいる。生徒がそれぞれに自分の考えをもち、意見を出し合い、みんなで考えを深めていくような時間を増やしていく必要があると感じる。

(2)熊本の学び推進プランから

「熊本の学び推進プラン」は、「熊本のすべての子供たちが、『学ぶ意味』を問いつつ、『能動的に学び続ける力』を身に付けることを目指す」という理念の下に作られている。それを実現させるために、子供たちに期待する学びの姿が三

つ提言されている。

【提言1】ふるさと熊本に根差し、豊かな郷土の創造と自己の向上を目指し、能動的に学び続ける熊本の子供

【提言2】問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める熊本の子供

【提言3】自分の学びの姿を知り、日々たゆまず、自ら学ぶ熊本の子供

本校の生徒の実態をふまえ、現在の竜北中の生徒に特に期待する姿は提言2であると考える。

「熊本の学び推進プラン」の総説の中では、次のように書かれている。

『これからの時代を担う子供たちには、出来合いの答えのない課題に対応する力が求められます。実社会や実生活の中から、自分（たち）なりの問いを立て、自分（たち）なりの方法で、自分（たち）なりの答え（納得解・最適解）にたどり着く「探究的な学び」が求められています。』～p3より抜粋～

このような授業を展開するためには、どうすればよいのか。まずは、私たち教師がそれぞれにもつ“授業観”を見つめ直す時間が必要ではないかと考える。

(3) 本校の教育の目標から

今年度の本校の教育目標は「『夢』の実現へ向け、学び続ける竜中生～生徒・地域と共に創っていく学校～」である。

教師と生徒、学校と家庭・地域・行政との連携を深め、「五者」が一体となって、知・徳・体のバランスのとれた「社会人基礎力」を育てる学校づくりを目指している。「社会人基礎力」は3つの能力と12の能力要素で示してある。

①前に踏み出す力…主体性、働きかけ力、実行力

②考え抜く力…課題発見力、計画力、創造力

③チームで働く力…発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力

「社会人基礎力」に示されている12の要素の中で、生徒の実態等も含め本校が最も大切にしたいものは“主体性”である。

5 研究の具体的な取組内容の実際

【研究の仮説】

「心理的安全性」が確保された教室であれば、クラスみんなが自分の意見や考えを自由に表現し、主体的に学びにとりくむ生徒の姿が見られ、学習意欲も向上するであろう。

(1) クラスみんながつながる学級づくり

週に一回の学活の時間や、朝の会、帰りの会、行事などの特別活動の時間を“クラスがつながる時間”という意識をもち、いくつかの取組を行った。

①帰りの会での1分間スピーチの実施

各クラスの実態に応じて担任がテーマを決め、朝の会か帰りの会で1分間スピーチを実施した。その際、必ず「お返し」をすることを共通実践し、クラスのつながる時間とした。

②グループエンカウターの実施

生徒会役員で計画、運営を行う、全校生徒でのグループエンカウター（ワードウルフ）を実施した。

(2) みんなで納得解を探していく道徳授業づくり

①ワークシートや板書の工夫

子どもたちの心の動きを視覚的にみんなが捉えることができるように「心情メーター」や「心情曲線」などを描かせたり、板書したりした。

②問い返しや共感の工夫

授業の中で出た子どもたちの発言に対して「なぜそう思ったのかな」「このときの心はどんな心だったのかな」などの問い返しや、子どもが出してくれた意見に教師が共感することで、安心して発言できるような環境をつくっていった。

③学級掲示の校内掲示の工夫

生徒の考えや意見を教室の背面や学年の廊下等に掲示し、授業の中で学んだことやクラスの仲間がどんなことを考えていたのかが分かるような学級掲示の工夫、校内掲示の工夫をおこなった。

(3) 教師一人一人の授業力向上

大研や小研を実施するだけでなく、その後の振り返りが行えるように、校内研修の中でその時間を設定した。また、授業参観シートも授業をみる視点を絞るなどの工夫を行った。また、今年度は何度も指導主事を招き御助言、御指導いただいた。

6 目指す成果【検証方法】

(1) 学力向上について

①昨年度の熊本県学力・学習状況調査において、国語・数学・英語の正答率では県・全国比を上回ることができた。今年度も引き続き正答率において県・全国比を上回ることを目指していく。特に、観点別正答率における「主体的に学習に取り組む態度」の向上を図りたい。

②i-check「学習習慣・学習意欲」の項目で検証する。校内において5月にアンケートを実施し、12月の県学力・学習状況調査結果と肯定率を比較する。

(2) 学び合える学級集団について

i-check「学級の規範意識・学級の絆・発信力」の標準スコアで全国比を上回ることを目指す。校内において5月にアンケートを実施し、12月の県学力・学習状況調査結果と肯定率を比較する。また、同調査の標準スコアで検証する。

7 研究実施の実際

時 期 (月)	実施内容
4 月	○研修計画、研究組織・部会等の決定
5 月	○「熊本の学び推進プラン」について、講師招聘による研修及び方向性の確認

	○「学びのアンケート」の実施・実態把握 ○各部会（3部会）の取組内容の検討・実施
6月	○研究授業・授業研究会（第1回）の実施
7月・8月	○各部会の取組の検証・9月以降の計画の検討・修正 ○教科部会（学習構想作成等）
9月	○学校訪問（総合訪問）を受けての課題検証
10月	○1月公開授業の周知（八代管内）
11月	○研究授業・授業研究会（第2回）の実施
11月	○公開授業学習構想案検討会①
12月	○公開授業学習構想案検討会②
1月	○事前授業研の実施 ○「熊本の学び」公開授業（数学・英語・道徳）及び授業研究会の実施
2・3月	○熊本県学力・学習状況調査結果の分析及び取組方向の修正・確認

8 市町村教育委員会の取組の実際

- (1) 「熊本の学び」プロジェクト校（研究指定校）情報交換会（第1回）参加（R6.4.26）
事前に情報交換会資料について、竜北中学校において確認打合せを行うとともに、校長から、学校の課題及びその解決に向けての思いや考え（道徳・特活等）を聞く。
- (2) 授業参観（R6.7.5）
PTA授業参観において、1・2年生が「SOSの出し方に関する教育」についての授業（特活：学級活動）を行った。「プログラム集」を参考に、学習シートが作られており、意欲的に課題に取り組む生徒の姿がみられた。
- (3) 「熊本の学び」プロジェクト校（研究指定校）情報交換会（第1回）参加（R6.7.30）
分科会2において、研究の方向性について共通理解することができた。
- (4) 「熊本の学び」プロジェクト校学校訪問参加（R6.8.21）
事前に学校を訪問し、校長及び研究主任から研究の進捗状況及び課題について情報交換し、また教師の頑張りについて聴くことができた。
義務教育課及び八代教育事務所の学校訪問に参加し、研究の進捗状況や課題等について、校長、教頭、研究主任から説明を受けた。また、集団づくりや授業の在り方等について、活発な意見交換ができた。
- (5) 公開授業のあり方及び案内についての指導助言（R6.10～11）
併せて、学習構想案についても指導助言を継続して行う。
- (6) 「熊本の学び」プロジェクト校の公開授業に向けた情報共有（R6.12.24）
オンラインでの参加。

(7) 公開授業に向けた事前授業参観 (R7.1.15)

授業参観後、意見交換

(8) 公開授業参観 (R7.1.24)

授業参観後、意見交換

※ 今後も「安心して学び合える学級集団づくり」のために指導助言を行っていく。

9 研究の成果【検証方法】

(1) 学力向上について

① 1年生の県学力調査の検証

熊本県学力・学習状況調査において、国語では全国平均正答率が59.9に対して本校の平均正答率は61.5と全国平均正答率を上回ることができた。観点別正答率における「主体的に学習に取り組む態度」に関しては全国平均正答率が49.1に対して本校の平均正答率は62.7と大幅に上回ることができた。数学においても全国平均正答率が45.5に対して本校の平均正答率は57.6、観点別正答率における「主体的に学習に取り組む態度」に関しては全国平均正答率が44.3に対して本校の平均正答率は56.2と大幅に上回ることができた。英語では全国平均正答率が56.8に対して本校の平均正答率は53.4と全国平均正答率を上回ることにはできなかったが、観点別正答率における「主体的に学習に取り組む態度」に関しては全国平均正答率が32.6に対して本校の平均正答率は35.9と上回ることができた。

② 2年生の県学力調査の検証

熊本県学力・学習状況調査において、国語では全国平均正答率が58.0に対して本校の平均正答率は60.7と全国平均正答率を上回ることができた。観点別正答率における「主体的に学習に取り組む態度」に関しては全国平均正答率が42.8に対して本校の平均正答率は52.9と大幅に上回ることができた。数学においても全国平均正答率が49.6に対して本校の平均正答率は51.9、観点別正答率における「主体的に学習に取り組む態度」に関しては全国平均正答率が33.1に対して本校の平均正答率は34.8と上回ることができた。英語では全国平均正答率が52.1に対して本校の平均正答率は51.0と全国平均正答率を上回ることにはできなかったが、観点別正答率における「主体的に学習に取り組む態度」に関しては全国平均正答率が32.8に対して本校の平均正答率は37.4と上回ることができた。

③ i-check「学習習慣・学習意欲」の検証

以下の質問項目において全国と比較し、検証を行った。

質問項目	本校 1年生	全国	本校 2年生	全国
勉強するときは自分で計画を立てていますか。	56.8	56.3	63.0	49.7
テストで間違えた問題はあとでやり直していますか。	79.5	68.4	84.8	59.4
ノートの取り方について自分なりの工夫をしていますか。	77.3	73.3	76.1	68.0

どの項目においても、全国平均を上回ることができ、学習習慣も学年が上がるご

とに身につき、学習意欲も学年が上がるごとに向上していることがわかった。

(2) 学び合える学級集団について

i-check「学級の規範意識・学級の絆、発信力」の検証を以下の質問項目において全国と比較し、行った。

質問項目	本校 1年生	全国	本校 2年生	全国
あなたのクラスでは、みんなが先生の言うことを守っていますか。	95.5	87.2	89.1	87.2
今のクラスが好きですか。	100	86.4	91.3	86.4
あなたは、クラス全員の一人ひとりのいいところを、言葉にして言うことができますか。	100	70.6	84.8	70.6
クラス全体やグループ、友だち同士で話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言していますか。	84.1	62.7	67.4	62.7
クラスの多くの人や仲のいい友だちと意見がちがっても、自分が正しいと思ったことは、それを主張することができますか。	81.8	62.3	67.4	62.3

どの項目においても、全国平均を上回ることができ、学級の規範意識は高まっていることがわかる。また学級の絆も深まっていることがわかる。校内研修のテーマにそって、安心して学び合える学級集団をつくるために、学級でも各授業でも「心理的安全性を見出すための工夫」を行ってきた成果だと考える。

1 0 研究の課題と今後の展望

全国平均を上回ることができたものの、2年生の発信力に課題があることが、上の結果からもわかる。今年度は具体的な共通実践が少なかったので、来年度はもう少し具体的な取組を職員全員で考えながら、全員で足並みを揃えて実践を積み重ねていきたい。

1 1 研究成果の普及

- (1) 令和7年1月中旬に公開授業を実施し、県内の学校に参加を募る。
- (2) 本プロジェクトの取組の様子等について、学校ホームページや学校便り等を使い情報を発信する。
- (3) 氷川町教務主任会・研究主任会で取組の報告を行う。
- (4) 氷川町教育研究会・八代教育研究会へも情報を発信する。